

平成28年6月8日

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会
会員の皆様へ

《6月度農場便り》

「計算違いの連鎖」

今農場では遅れていた田植えも漸く終わり、補植もあと1枚の田んぼだけとなり春野菜の葉物を片付け夏野菜の定植を行える段になりました。ところが、人、栽培面積で思わぬ計算違いが発生して戦略の練り直しを余儀なくしています。人の面では11月までの約束の研修生の國武君が3月14日に戦線離脱、また一方、来る6月15日には金精軒さんから8月まで出向予定の小沢さんが急遽退職、二人が約束の期限までいることと研修生の就農支援の意味も含め田畑をそれぞれ2倍の面積に増やしたことが重荷になってしまうのです。そんな中、不幸中の幸い、お米づくりでは新規借用の田んぼが長期間水田として使用されていなかったため保水力が無く稲作は不可能、先月の農場便りで報告したように5割ぐらいしか発芽しない稲苗も2倍の稲苗育苗のお蔭で従来の田んぼに間に合うだけの稲苗を確保することが出来たのでした。また2倍に増やした田んぼ全ての稲作は小生一人では到底不可能です。省力化できる大豆栽培に切り替えることで人手の件もある程度解消できるのです。それでも絶対的人手不足は致命的です。その積りで播種し育苗してきたトマト、茄子、ピーマン類の沢山の定植前の苗が育苗ハウスの中に所狭しとばかりに育苗ハウスの中にあります。6月中は一週間に一度の5枚の田んぼのチェーン除草を4週、つまり週5日間毎日2~3時間除草を行わねばなりません。8年目にして初めての経験をすることになります。こうした状況の中、一年、一年、身体的機能の衰えは気力だけでは補うことは適わず「出来る範囲で耕作していければ良し」とするといった計算違いの連鎖を毎日過ごしている今日この頃です。無理をしたくても無理が出来ない年頃を痛感しているところです。一方、4月29日から毎週土日にオープンしている直売所はまだまだ来店するお客様は10数名と少ないですが徐々に増える傾向にあり、自然栽培野菜の持つ味わいの理解者が増えることが夏場に向かい楽しみです。野菜や加工食品はもとより生活に密着した手づくりの品揃えを増やし多くの人の交流できる場にしていく所存ですので土日以外でもお近くのお越しの際は是非お立ち寄りください。

・今年初めてのチェーン除草（6月7日）

・カエルの睨めっこ（6月3日）



メール yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp

携帯080-3080-3017